

# しんせつ



第 94 号

2018 年 1 月  
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>

# チュウヒサミット 2017 が開催されました



桑名市 近藤義孝・四日市市 笹間俊秋

2017年9月21日にチュウヒ(*Circus spilonotus*)は、「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保全法)で指定種になりました。

日本野鳥の会愛知県支部・日本野鳥の会三重・名古屋鳥類調査会は木曾岬干拓地で繁殖するチュウヒを守るため、全国各地のチュウヒ繁殖地・生息地の研究者・観察者を招き開催したのが「チュウヒサミット 2006」でした。この時は『河北潟の変遷』と題して、チュウヒの繁殖地の河北潟について金沢大学名誉教授大申龍一氏に基調講演をしていただきました。

「チュウヒサミット 2008」では、『渡良瀬遊水地におけるチュウヒの越冬生態と湿地環境』と題してNPO法人バードリサーチの平野敏明氏による基調講演がありました。また、「チュウヒサミット 2010」は(公財)日本野鳥の会も主催団体に入り、ヨーロッパチュウヒの繁殖数の増加に成功したイギリスから英国王立鳥類保護協会(RSPB)のAdam Rowlands(アダム ローランズ)氏を招き、『英国のチュウヒ～増減の歴史と保護策～』として復活に成

功した事例の報告がありました。

チュウヒに対する認知度は少しずつ高くはなっているようですが、同時に繁殖地やその周辺の採餌場所などにメガソーラーが敷設されたりする開発行為が行われています。そのため、多くの繁殖地が大きな問題を抱えています。チュウヒの繁殖を継続させていくためには、個々の個人・団体の活動だけではなく多くの仲間が集まり、力を合わせる必要があります。今回の集会は、基調講演や各地からの報告を元に全国の活動をつなげ、チュウヒの保護の活動を進めるためのものです。



チュウヒサミット 2017 の模様

## 目次

チュウヒサミット 2017 が開催されました	2
表紙の言葉	2
チュウヒサミット 2017 宣言	3
2017 年タカ渡り集計	4
アオジはいつ来るのか	5
足見川メガソーラー建設計画中止を求める署名運動のお礼	6
四日市駅前のムクドリ対策	6
松阪市「第9回くるくる環境フェスタ IN ベルファーム」に出展しました!	8
第25回中部ブロック会議 in 石川	8
事務局だより	9
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化	
第10回 オオソリハシシギとオグロシギ	10
野鳥記録	14
今後の探鳥会予定	17
探鳥会報告(2017年9月~10月)	18
編集後記	20

## 表紙の言葉

ジョウビタキ

度会郡度会町 小坂里香

白髪頭のジョウビタキ、通称ジョビ夫またはジョビ太。

あまり人を恐れず、近くまで来てくれるので、野鳥を好きになったところに特に印象深かった1種です。

今年はなぜか、近所にいるはずのジョウビタキが庭に寄り付きません。

昨年、室内に迷い込んできたのを猫が追い回して羽根をむしってしまいました。

昨年の子が元気でもどってきていて、怖がって近寄らないだけかもしれません。

そうだったらいいのだけれど、と思いながら描きました。

2017年11月18日(土)名古屋市立大学桜山キャンパス 医学研究科・医学部研究棟11階 さくら講堂にて、チュウヒサミット2017が開催されました。参加者は115名でした。

当日、発表された講演は以下の通りです。

### 基調講演

- 『日本のチュウヒの生態 ～地域や季節による多様性～』 日本野鳥の会岡山県支部 多田 英行
- 『北海道におけるチュウヒの生態』 道央鳥類調査グループ先崎 啓究
- 『今後の「チュウヒの保護の進め方」について』 (公財) 日本野鳥の会浦 達也

### 各地からの報告

- 『「チュウヒの国内南限繁殖地」福岡県北九州市響灘地区の現状報告』 日本野鳥の会北九州支部 三上 剛・前田 伸一
- 『カムバックチュウヒプロジェクト(大阪府堺市産廃埋め立て処分地のチュウヒの繁殖と環境保全)』 日本野鳥の会大阪支部 清水 俊雄
- 『北海道サロベツ湿原におけるチュウヒの営巣環境選択』 東京都市大学 平井 千晶
- 『チュウヒが受けるストレス』 日本鳥類標識協会 中川 富男
- 『日本国内で繁殖するチュウヒの分散の把握について』 日本鳥類標識協会 中川 富男・一北 民郎
- 『木曾岬干拓地でのチュウヒの繁殖の現状と今後の懸念』 日本野鳥の会三重 近藤 義孝



木曾岬干拓地 チュウヒ調査視察

### ポスター発表

- 『北海道北部におけるチュウヒの繁殖状況』 サロベツ・エコ・ネットワーク 長谷部 真・(公財) 日本野鳥の会 浦 達也・日本野鳥の会三重 平井 正志
- 『チュウヒの繁殖へのメガソーラーの影響』 日本野鳥の会岡山県支部 多田 英行

最後に、「チュウヒサミット2017宣言」が論議され、参加者の意見を反映させた上で正式な宣言とすることが了承されました。

サミット終了後には、後援者と参加者などで懇親会が開かれ、そこでもチュウヒについての議論が続いていました。

翌19日(日)、木曾岬干拓地で行われている月1回のチュウヒ調査に、チュウヒサミット2017の講演者(希望者)が同行しました。真冬並みの寒さの中、干拓地内ではチュウヒ合計4羽を確認することができ、参加者には木曾岬干拓地の現状をありのままに見てもらいました。

## チュウヒサミット2017宣言

2017/11/18 名古屋

日本でのチュウヒの繁殖数はごく少ない。そのほとんどが、北海道と東北北部に集中し、それ以南の繁殖地は種々の開発行為により、壊滅的であり、全国を合計してもわずかに110ないし140つがい程度である。また、越冬地である葦原も同様に種々の開発行為にさらされている。

チュウヒは2017年9月、種の保存法の指定種(絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律における国内希少野生動植物種)となった。環境省も各自治体も、さらに国民である地権者もチュウヒを保護する義務を負わされたこととなる(2条1-3)。この中には当然、生息地保護も含まれよう。

これを機会に国、地方自治体はチュウヒ生息地保護の明確な姿勢を示し、鳥獣保護区特別保護地区に指定するなどして、生息地の開発を厳しく規制して、保護に着手

すべきである。

**1. (越冬地を含む生息地全般)** 現在、チュウヒ生息地はたいへんな脅威にさらされている。従来型の湿地開発は減りつつあるものの、大型および小型の風力発電、大規模、小規模太陽光発電はチュウヒの生息地、越冬地、繁殖地を問わず、大きな脅威となっている。特に、小型風力や小規模太陽光発電はほとんど規制措置がないのが現状である。アセスメント調査もなしに突然建設される例が後を絶たない。今回の指定を受けて、生息地を指定し、これらを建設すること、生息地の改変を規制すべきである。

**2. (東北を除く本州の繁殖地)** 東北を除く、本州、九州の繁殖地は壊滅的である。これまで、過去に続けて繁殖した

地域、および現在も繁殖している地域については繁殖地、繁殖可能地として、これ以上の開発を中止し、チュウヒの営巣環境を保持、あるいは回復するよう環境省および、自治体は措置を取るべきである。

**3. (東北北部および北海道の繁殖地)** 東北および北海道ではある程度の繁殖数が確保されているが、ここでは風力発電、太陽光発電の他農地開発や港湾開発が計画されている場所もある。チュウヒの繁殖地は厳密に保護されるべきである。

**4. (木曾岬干拓地における開発)** 木曾岬干拓地では三重県がチュウヒ繁殖地に新たな開発を意図している。これはチュウヒが種の保存法指定種になって初めての繁殖地開発計画である。現在1つがいが繁殖している場所であり、開発で繁殖が消滅することは明らかである。種の保存法に違反する行為であるといわざるを得ない。三重県は木曾岬干拓地の開発未着手部分をチュウヒ繁殖地として積極的に保護、維持すべきである。

**5.** 我々、チュウヒを観察し、保護しようとするものは生息と保護に関する情報を共有し、連携を深めて行きたい。

## 2017年タカ渡り集計



津市 平井 正志

今季のタカ渡り調査の結果を集計しました。県北部や岐阜県側での調査ではハチクマが多く渡り、それ以外の調査地ではサシバが多数でした。なお、調査の詳細については本号の探鳥会報告をごらんください。会員の調査結果は公表しようと思います。今後もご協力ください。

日付	開始時間	終了時間	天候	サシバ	ハチクマ	ノスリ	その他	
伊勢市 岡本 やすらぎ公園				高木正文・中西 章				
9月24日	8:05	8:40		6				
9月25日	8:12	10:00	晴	2				
9月27日	8:15	10:00	晴	0				
9月28日	8:30	10:00	小雨	0				
9月29日	8:15	10:00	晴	20				
9月30日	6:20	11:25	晴	456	1			探鳥会
10月1日	6:45	10:15	晴	570	1	1	オオタカ1, アサギマダラ1	
10月2日	7:40	10:00	曇のち雨	6	1			
10月4日	8:15	10:00	晴	2				
10月5日	8:05	10:00	曇	5				
10月8日	8:00	10:00	晴	0			アサギマダラ1	
10月10日	8:06	10:00	晴	0				
奈良県 御杖村 みつえ高原牧場				田中豊成・玉田浩司				
10月1日	8:00	12:00	晴のち曇	233		7	ハイタカ1	探鳥会
松阪市 飯南町 相津峠								
10月1日				約200	6	1	ハヤブサ1	探鳥会
桑名市 多度山3合目				近藤義孝				
9月23日	9:00	13:00	晴	11	39		ミサゴ3, トビ4, オオタカ1, ハヤブサ2	探鳥会
岐阜県 海津市 庭田山公園				笹間俊秋				
9月20日	12:00	15:00	晴	0	0	0		
9月21日	11:00	14:53	晴	4	16	2		
9月25日	12:00	16:00	晴	0	0	1		
鳥羽市 答志島 答志ブルーフィールド				小坂里香 西村泉				
10月7日	7:30	11:30	曇のち晴	0	0	2	ミサゴ1、ヒヨドリ群	探鳥会



# アオジはいつ来るのか

津市 平井 正志

## はじめに

以前に亀山市井尻町の鈴鹿川の中流河川敷で秋深まってからカスミ網を張り、かかった鳥に足環を付けて放鳥する調査をやったことがある。この調査は環境省の委託による調査で、山階鳥類研究所の指導の元に鳥の扱いの訓練を受けた後行ったものである。アオジの越冬地への到着の様子をまとめてみた。

アオジは三重県では繁殖しておらず、中部山岳の標高の高い場所でも繁殖しているが、ほとんどのアオジは北海道以北で繁殖し、秋に本州各地へ渡っている。三重で越冬するアオジも北海道以北で繁殖するものが多いと思われる。アオジは越冬期には藪の中に生息し、開けた場所にほとんど出ないため、渡ってきてもすぐに目につくわけではない。ジョウビタキのように派手な縄張り争いもしない。しかし、カスミ網にはかかるので、いるかいないかがよく分かる。

## 調査の方法

調査は1998年から2003年までだが、2001年はこの時期に調査しなかった。当時鈴鹿川の河川敷は砂礫の河原で、所々にヨシが生え、またヤナギ類の灌木があった。カスミ網にはホオジロ、アオジの他カシラダカ、ベニマシコなどがかかった。

表に10月19日から11月10日までに捕獲したホオジロとアオジの数を集計した。ここではすでに足環の付いた鳥も含めて集計した。しかし、同じ日に同じ個体が捕獲された場合には集計から除外した。空白の日は調査をしていない日である。調査し

たが、この2種とも網にかからなかった日(2000年10月22日など)にはゼロを入れてある。

## アオジの到着

ホオジロは10月中旬からほぼ毎回捕獲され、カスミ網が鳥を捕獲するのに適切に設置されていることを示している。アオジは10月中旬には捕獲できず、捕獲の始まりは年によってややばらつき、10月下旬から11月上旬であった。

図に初めて捕獲された日を赤字で示した。調査をしてもアオジを捕獲できなかった日にはアオジが到達していないと仮定した。この仮定はアオジが到着した後は連続して数羽が捕獲されているので、ほぼ正しいであろう。

この仮定のもとに、推定される到着日を図に青色の網掛けで示した。これによると早い年で10月25日に到着した可能性があり、遅い年には11月2日に到着した可能性がある。アオジの到着は年により、早晚があるが、ここに示された10日前後の変動に収まるようである。

会員諸子の観察の結果と一致するだろうか？ また、近年の環境変化は影響しているだろうか？



アオジ

年	種類	10月										11月													
		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1998	ホオジロ								5					2			5					16			
	アオジ								0					9			4					12			
1999	ホオジロ							2		4				5	0		4					4			
	アオジ							0		2				3	4		14					11			
2000	ホオジロ			5		8	0		1			3		4		7		4		7					11
	アオジ			0		0	0		0			0		2		2		3		28					12
2002	ホオジロ					1						0					2		0						
	アオジ					0						0					3		3						
2003	ホオジロ			6						8				7		1							4	3	
	アオジ			0						0				0		2							7	8	

## 足見川メガソーラー建設計画中止を求める署名運動のお礼



四日市市 安藤 宣朗

四日市市内に計画されている大規模太陽光発電設備（足見川メガソーラー）の建設中止を求める署名運動は、県内外の方々から多大なご協力を得て**5,261名（県内:4,809 県外:452）**の署名を頂きました。この内県内外の日本野鳥の会から届いた署名は、**2,451名**でした。

平成29年10月17日 地元の代表と共に四日市市長へ直接、要望書および署名を提出し建設中止を要望致しました。

今後、四日市市環境保全審議会の審議を経て11月下旬に市長意見として県知事および事業者へ提出の運びとなります。

今回の署名をどれほど評価し反映してくれるか？注視していく必要があります。

署名いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。



四日市市長へ要望書と署名を提出



## 四日市駅前のムクドリ対策



四日市市 笹間 俊秋

### 1. ムクドリの生態

ムクドリは約24cm、スズメとハトの間ぐらいの大きさでヒヨドリより一回り小さく、東アジアに広く分布し日本全域にいる留鳥です。平野や低山地にかけて生息し、都市部の人家や田畑などでもよく見られる。雑食性で植物の種子や果物、虫の幼虫などを好んで食べます。繁殖期はつがいで分散し木の洞や人家の軒先などの穴に巣を作る。繁殖期は巣で寝るが雛が巣立つと群れを作り、夜は一ヶ所に集まってねぐらを形成するようになり、冬は多いと数万羽の大群となることがあります。

### 2. 四日市駅前の状況

近鉄四日市駅からJR四日市駅を結ぶ中央通り沿いにクスの木約80本が植えられていて、以前より夏から冬にかけて数千羽のムクドリがねぐらとしています。この通りは車の往来も多く、深夜でも外灯があり常に明るく、天敵がないため、ねぐらとしては最適なのでしょう。そのためギョルギョルと大きな鳴き声が一晩中続くとともにフンを落と

し、住民や通行人などから多くの苦情が寄せられています。市の市街地整備公園課もクスの木の剪定など対策を行っていましたが、あまり効果は得られない状態が続いています。

### 3. 鷹匠による追い払い

そこで市は各地で行われていたムクドリ対策を調査し有効な手段として鷹匠による放鷹（ほうよう）を行うことを決めました。実施は8月2日から、3ヶ月で週2～3回、合計30回ほどタカを飛ばしムクドリを寄り付かないようにするということです。実施事業者は大阪市の「Green Field」で工場や倉庫でのハトやカラス駆除で実績のある会社です。



中央通りのムクドリ

#### 4. 放鷹を観察して

8月17日放鷹に同行させてもらいました。午後6時に四日市市役所前で数人の市職員と鷹匠1名が打ち合わせをしたあと、中央通りのクスノキや電線のムクドリを確認しながら近鉄四日市駅周辺へ向かいました。



放鷹に用いたハリスホーク

事前に職員は中央通りの東西に分かれて監視し、どの辺にムクドリがいるか連絡を取り、放鷹場所を決めているようでした。この日は駅から西側に200羽以上の群れがいる様で、その場所へ到着すると鷹匠は信号周辺の車や人の通行が多いところを避け、タカの安全を確認しながらムクドリへ向け放鷹する方向を決めているようでした。



鷹匠の放鷹

放たれたタカはムクドリの群れの中に突っ込み、しばらく群れの中でとどまり、辺りを伺っていました。ムクドリはタカが襲ってこないか気遣いながらも逃げるタイミングを計っているようでした。しばらくして合図を送るとタカは鷹匠の手の内に戻って来て餌を貰いました。それを何度も繰り返し、この場所にはタカがいると印象付けていきました。放鷹はムクドリだけでなくスズメなどの群れにも行われました。



近鉄百貨店前のムクドリ

一通り放鷹を済ませると、最後は近鉄四日市駅前へ戻り百貨店前の大きな木に群れているムクドリやスズメに向けて放鷹しました。ここは人通りが一番多く糞害がもっとも心配される場所です。ですから、ここは鳥の種類に関係なく念入りに放鷹を行い追い払いました。作業はあたりが完全に暗くなるまで続けられました。

#### 5. 放鷹による効果

放鷹が行われてから何度か夕刻駅前周辺に行きましたが、確かに以前よりムクドリの鳴き声は少なくなったようです。しかし完全にムクドリの群れはいなくなった訳ではなく、まだ周辺にいるようです。放鷹が終わり11月に入ったころには200羽ほどの群れが市役所南を移動するのを確認しました。四日市市長は周辺の丘陵地へ帰ってもらうと言われていました。確かに今のところムクドリの数は減少したかもしれません。

しかし、10月末に放鷹が終了したばかりで効果がいつまで続くかは分かりません。例え周辺の丘陵地へ帰って行ったとしても四日市市の山林は14%にすぎません。今後、桜地区、小山田・波木地区には大規模なメガソーラー建設が予定されていて山林は10%まで低下するといわれています。丘陵地へ帰っていたムクドリが開発によって再び、ねぐらを追われて駅前周辺へ舞い戻る可能性が高いのではないのでしょうか？むしろ放鷹以前は丘陵地にいたムクドリが開発に追われて、さらに数が増える危険性さえも考えられます。

今回の鷹匠による放鷹は東海地方でも注目されテレビ、新聞で何度も報道されました。対策費用も報道されていましたが、決して安いものではありません。市民の要望に応えるため最善の策を考えられていることは理解できますが、対処療法ばかりに陥らないためにも環境全般と未来を見据えて最善の策を講じていただきたいと思います。

## 松阪市「第9回くるくる環境フェスタ IN ベルファーム」に出展しました!



玉城町 西村 泉

2017年9月18日(月・祝)松阪市にある松阪農業公園ベルファームのイベントに出展しました。当日はお天気が良かったものの風が強く、展示物が飛ばされそうになりましたが、松阪地区の会員さんたちのおかげで何とか無事に終わることができました。またこの日は松阪市内のほとんどの小学校で運動会が行われていたため、小学生の姿はまばらで未就学児が目立ちました。

野鳥の会のブースでは、女の子たちに人気だったのが「塗り絵」。高学年の児童は、時間をかけ丁寧に描いていました。どの絵も色鉛筆できれいに色づけされ、とても素敵な仕上がりになりました。

ミニ探鳥会では、10名ほどの家族連れが初めてのバードウォッチングを楽しみました。参加者は近くの池に移動し、貸出用の双眼鏡を使って水面に出たり潜ったりするカイツブリの様子を熱心に観察していました。



塗り絵の様子



## 第25回中部ブロック会議 in 石川



四日市市 安藤 宣朗

中部ブロック会議は、日本野鳥の会連携団体に所属する中部10県(新潟、富山、石川、福井、長野、山梨、静岡、岐阜、愛知、三重)の団体で構成され、毎年県単位の輪番制で開催されています。

今年は、石川県の担当で、去る10月28日(土)～29日(日)に第25回中部ブロック会議 in 石川が開催されました。日本野鳥の会三重からは、近藤義孝、三曾田明、笹間俊秋、安藤宣朗の4名が参加し、「木曾岬干拓地での新たな開発の危機」(近藤)と「足見川メガソーラーの建設反対活動」(安藤)について発表しました。

各団体から当面する課題やジョウビタキの繁殖事例などの調査結果が報告されました。事例の多くは、急激に進行しつつあるメガソーラーや風力発電設備などによる自然破壊に対する対応や危機感が報告され、各地とも大きな問題となっています。

翌日開催された普正寺の森の探鳥会は、台風の接近による荒天予報に反し、ほとんど雨、風も無く58種もの野鳥を観察しました。



第25回 中部ブロック会議

会議の来賓として、石川県の自然環境課や河川課の行政4名を招待し、共に自然保全を考える場を設けた企画は、素晴らしく三重県で開催する時も見習いたいものだと思います。

石川支部の心細やかな企画や対応に感謝します。

紙面の関係で、今回の会議のテーマを紹介し、報告に代えます。



初日は、

**【講演】**

「里山を守るために私たちが出来る事」

日本オオタカネットワーク副代表 今森達也氏  
オオタカの希少種指定解除による問題点を指摘

**【協議事項】**

「環境保全を考える（国、自治体との連携例）」

普正寺の森の河川工事・・・石川県（白川郁栄）  
磐田大池の公園整備事業・・・静岡県遠江（増田裕）  
64年続く塩嶺小鳥バス・・・長野県諏訪（林正敏）  
国や自治体との協働・連携として・・・  
財団（葉山政治）

**【協議事項】**

「環境保全を考える（太陽光発電、風力発電）」

メガソーラーに関するアンケート結果・・・  
財団（浦達也）  
四日市メガソーラー・・・三重県（安藤宣朗）  
木曾岬干拓・・・三重県（近藤義孝）  
能登の風力発電・・・石川県（中村正男）



ムギマキ

**【中部ブロックで連携できる活動をさぐる】**

コアジサシの繁殖調査・・・富山県と三重県の提案  
渡り鳥の環境保護活動・・・長野県  
渡り鳥（ワシタカ、シギチ）のルート解明他  
イソヒヨドリの生息分布・・・福井県  
ミヤコドリの生息調査・・・三重県

以前から懸案になっていたが、今回提案元が調査要領を取りまとめた上、公表し各団体が協力してデータの蓄積を行う事になった。

**【報告事項】**

山梨県内のカモ類の減少・・・山梨県甲府（杉原廣）  
沼津市香貫山の巣箱掛け・・・静岡県沼津（鈴木正之）

**【財団より】**

2017年度探鳥会リーダーズフォーラム・・・  
財団（井上奈津美）  
2017年度会員を増やすための探鳥会について・・・  
財団（井上奈津美）

2日目は、

**【探鳥会と視察】**

普正寺の森にて探鳥会および犀川河川工事に関する経過報告と視察を実施。

クロツグミ・ムギマキ・オオムシクイなど珍しい鳥をはじめ、今渡りの最中であるツグミ類やベニマシコなど58種類の野鳥を観察した。

**【参加者】**

石川支部のスタッフを含め63名

以上

**事務局だより**

活動の記録（2017年9月～11月）

- 9/ 3 「木曾川中流鳥獣保護区」期間更新について意見書を提出
- 9/18 松阪市「くるくる環境フェスタ IN ベルファーム」へ出展参加
- 10/ 会報「しろちどり 93号」発行・発送作業
- 10/17 足見川メガソーラー事業中止の署名を四日市市長へ提出
- 10/28～29 「第25回中部ブロック会議 IN 石川」へ4名参加
- 11/12 第2回理事会開催
- 11/18 チュウヒサミット開催



# シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 —連載第10回 オオソリハシシギとオグロシギ—

津市 今井 光昌

オオソリハシシギは春秋の渡りの途中に立ち寄る旅鳥で、河口干潟や砂浜を好み、内陸部で観察することは稀です。少数の群れでいることが多いが、時に30羽程の群れを見ることがあります。オオソリハシシギはダイシャクシギやハウロクシギより小さいもののシギ類では大型の部類に入ります。嘴が長く、上方に反っており、その形状から識別が容易なシギと言えます。ただ、嘴の反りにも個体差があり、オグロシギのように嘴が真っすぐに見える個体も少なからずいます。そうした個体はオグロシギとの識別に注意が必要です。

## オオソリハシシギ

◆ 亜種 *Limosa lapponica baueri* と 亜種 *Limosa lapponica menzbieri*

オオソリハシシギは3亜種に分かれますが、その内2亜種が日本に渡来します。普通に渡来するのは亜種 *baueri* で、オオソリハシシギと呼ばれ、背と腰が褐色です。日本でコシジロオオソリハシシギと呼ばれているのは亜種 *menzbieri* で、背と腰の白さが目立ちますが、真っ白ではなく褐色斑が散らばって

います。背から腰が真っ白な亜種 *L. l. lapponica* は日本では渡来記録がないようです。図1下の背と腰が褐色なのがオオソリハシシギ (*baueri*) で、背から腰が白く見える上の個体がコシジロオオソリハシシギ (*menzbieri*) です。図2は左がオオソリハシシギで、右がコシジロオオソリハシシギです。図1と同じ2個体なので識別できましたが、2亜種は酷似しているため、背から腰の白さが確認できない場合は識別は困難です。



図1 幼鳥 2009.10.16



図2 幼鳥 2009.10.16

2008年から2010年の3年間、秋渡来の幼鳥にどの程度の比率でコシジロオオソリハシシギが混じるのか、雲出川河口で観察を続けました。渡来した全ての幼鳥を確認できていませんが、3~4割がコシジロオオソリハシシギと判断してよいように思いました。

秋に渡ってくる幼鳥だけでなく、春に渡ってくる成鳥も同じような比率でコシジロオオソリハシシギが渡来していると思います。

図3と図4はコシジロオオソリハシシギ成鳥夏羽の♀と♂です。背から腰に褐色斑がありますが白色が強いことで、コシジロオオソリハシシギと識別できます。



図3 コシジロオオソリハシシギ ♀夏羽 2009.04.19



図4 コシジロオオソリハシシギ ♂夏羽 2009.04.19

### ◆オオソリハシシギとオグロシギ

シギ・チドリの秋の渡りは繁殖を終えた成鳥がまず越冬地に向かって渡り始め、2～3週間遅れて幼鳥が旅立ちます。雲出川河口一帯では、繁殖地を飛び立ったオオソリハシシギの幼鳥が8月下旬に到着し、9月から10月にかけて渡来数が増え、毎年20～30羽程が見られます。ただ、成鳥と幼鳥の渡りのルートが違うためなのか、2005年から2017年

#### 幼鳥

オオソリハシシギの幼鳥（図5）は全体に淡い灰褐色を帯び、胸・腹部に褐色の縦斑があります。肩羽や三列風切の軸斑の先は尖っており、上面各羽の羽縁はオグロシギ幼鳥より白味が強いです。オグロ



図5 オオソリハシシギ 幼鳥 2012.08.30

までの13年間で秋に成鳥が渡来したのは3度（6個体）しかありません。一方、オグロシギは春秋共にオオソリハシシギに比べ渡来数が少ないものの、上記13年間で8度、秋の渡来で成鳥を観察できています。成・幼の比率もオオソリハシシギより偏りが少ないことから、成鳥と幼鳥の渡りのルートがオオソリハシシギのように異なることはないようです。

シギの幼鳥（図6）は頭部から背、頸から胸・腹部に橙色味を帯びます。肩羽の黒褐色の軸斑はオオソリハシシギ幼鳥より黒味が強く、軸斑の先は尖らず丸味があります。また、羽縁も橙色味を帯び、雨覆・三列風切に黒褐色斑と橙色斑の模様があります。



図6 オグロシギ 幼鳥 22008.08.22

#### 幼鳥→第1回冬羽に換羽中

図7のオオソリハシシギ幼鳥はこれまでで最も遅くまで居残った12月7日の撮影です。背・肩羽に灰褐色で軸斑の細い新しい羽（冬羽）が出ていますが、まだ多くの幼羽が肩羽に残っています。オオソリハシシギ幼鳥は第1回冬羽への換羽が遅く、11月に冬羽が出ている個体は殆どいません。一方、

オグロシギ幼鳥は10月には殆どの個体に冬羽が出ています。図8のオグロシギ幼鳥は10月13日の撮影です。この個体は特に換羽が早く、背・肩羽の多くが冬羽に換羽しています。オグロシギ幼鳥はオオソリハシシギ幼鳥よりも第1回冬羽への換羽が早いようです。



図7 オオソリハシシギ 2010.12.07



図8 オグロシギ 2010.10.13

図9は春の渡来で3月24日のオグロシギ第1回冬羽です。上面は一様な灰褐色で淡色の羽縁があり下面は淡い灰褐色です。この画像では分かりづらいですが大雨覆と三列風切の一部に擦れの激しい羽が残っていることもあり、第1回冬羽と判断しました。



図9 オグロシギ 第1回冬羽



図10 オオソリハシシギ 幼鳥

### オオソリハシシギ幼羽のバリエーション

図10は2012.08.30のオオソリハシシギ幼鳥2個体です。上の個体は肩羽の白斑が大きく明瞭です。肩羽がそろばん玉模様の普通に見られるオオソリハシシギ幼鳥の羽模様をしていますが、下の個体は白斑が小さく、羽縁に淡い橙色味があります。オオソリハシシギ幼羽にもバリエーションがあるということになるのでしょうか。野外でこのような2個体が並んでいると幼鳥と成鳥冬羽ではないかと疑いも出るかと思いますが幼鳥です。成鳥冬羽の場合は上面は一様な灰色です。

### 成鳥夏羽 雌雄

オオソリハシシギもオグロシギも♂は♀より体が小さく、嘴も足も♂は♀よりやや短い。オオソリハシシギの夏羽は、♂は体の赤褐色味が強く、♀は淡く白っぽい個体が多い(図11)。オグロシギ夏羽

は、♀の赤褐色味が♂に比べやや淡い程度で、オオソリハシシギに比べると雌雄の赤褐色味の差が小さい(図12)。また、オオソリハシシギ夏羽は胸から腹部まで赤褐色だが、オグロシギ夏羽は赤褐色部が胸あたり迄しかなく、胸から腹部に黒色の横斑



図11 オオソリハシシギ 左 ♀ 右 ♂



図12 オグロシギ 左 ♂ 右 ♀



図 13 オオソリハシシギ成鳥 2011.04.21



図 15



図 14 オグロシギ成鳥 2015.04.24

がある。オオソリハシシギは翼上面に白帯はなく尾は褐色の縞模様で翼下面に模様があるのに対し(図 13)、オグロシギには白色の翼帯があり翼下面に模

様はない(図 14)。飛翔時には上尾筒の白さと尾羽の黒さが目立ちます。図 15 の上がオグロシギで下はオオソリハシシギです。

### 成鳥冬羽に換羽中

図 16 のオオソリハシシギと図 17 のオグロシギは上面に灰色の冬羽が出ている冬羽に換羽中の成鳥です。これまで三重県で観察できた秋の成鳥は換羽途上ばかりで、完全な冬羽個体だけでなく、こう

した冬羽が多少でも出ている個体を見ることも稀にしかありません。オオソリハシシギもオグロシギも三重県での越冬記録はありません。秋に渡来した成鳥が 10 月頃迄居残ることもありますが、完全な冬羽に換羽する前に渡去してしまいます。



図 16 オオソリハシシギ 2010.10.01



図 17 オグロシギ 成鳥 2010.10.13



図 18

### 最後に

オオソリハシシギは嘴が上に反り、オグロシギの嘴は真っすぐと言う固定観念があると、嘴が真っすぐに見えるオオソリハシシギや角度によって嘴が反っているように見えるオグロシギに出会うと「どっちかな?」と言うことになってしまいます。この 2 種の識別は嘴の形状は参考に留め、羽模様の違いで識別することが大事だと思います。図 18 の成鳥は嘴が真っすぐに見えますがオオソリハシシギです。

# 野鳥記録 (2017年08月11日から11月15日までに報告があったもの)



野鳥の種類名	個体数	観察年月日 2017年	観察場所 (三重県)	雄/雌/ などの区別	記録報告者名	脚注
ツバメチドリ	1	8月16日	桑名市城南干拓	成鳥	山神 勝治	1
セイタカシギ	2	8月13日	志摩市磯部町		広野 喜郎	2
アカアシシギ	1	8月30日	松阪市五主海岸	幼羽	玉田 浩司	3
アカアシシギ	1	8月30日	松阪市五主海岸	成鳥	玉田 浩司	4
シマアジ	1	9月15日	桑名市多度町	幼鳥	山神 勝治	5
エゾビタキ	3	9月18日	三重県伊賀市		玉田 浩司	6
(チュウサギ?)	1	9月24日	四日市市西大鐘町		今西 純一	7
クロハラアジサシ	1	9月18日	四日市市楠町派川	成鳥	山神 勝治	8
イヌワシ	1	9月24日	員弁市藤原町	成鳥	山神 勝治	9
オオミズナギドリ	約30	9月18日	鈴鹿市長太新町		三曾田 明	10
ノビタキ	3	10月10日	松阪市嬉野町平生		前田 聡	11
ハヤブサ	1	10月14日	四日市 IC 北東		山田 亨	12
センダイムシクイ	1	10月 9日	自宅の庭	若鳥?	小野 新子	13
ジョウビタキ	1	10月19日	自宅の庭	オス	米倉 静	14
シマアジ	2	10月12日	四日市市楠町	雄・成鳥	山神 勝治	15
オオアジサシ	7~8	10月17日	四日市市楠町		山神 勝治	16
ミヤマホオジロ	1	10月31日	いなべ市大安町石		矢田 栄史	17
オシドリ	10	10月31日	津市安濃ダム		唐津 敏明	18
マミチャジナイ	1	11月 3日	大台町相津峠	幼鳥	西村 二郎	19
アトリ	10	11月 7日	菰野町鈴鹿山系		矢田 栄史	20
マヒワ	15	11月 7日	菰野町鈴鹿山系		矢田 栄史	21
ヤマドリの死体	1	11月 7日	菰野町千草		矢田 栄史	22

## 脚注

1. この地で見られたのは、およそ6年ぶりでした。
2. 志摩市内で見たのは初めてなので報告します。
3. トウネン、ソリハシシギ、キアシシギとともに採餌していました。
4. 成鳥、夏羽から冬羽への換羽中でしょうか。
5. 秋にシマアジを見たのは初めてです。
6. 桜並木でさかんに採餌、他に同地でコサメビタキ、オオルリ。
7. 頭からカレーをかぶったような色です。油や血のようにも見えません。珍しい種かと思いたくさん撮影しましたが、調べてみてもこのようなサギは見つかりません。右足を痛めているようで、あまり歩きません。移動する際は羽ばたきながらでした。大きさもチュウサギサイズでした。
8. オオミズナギドリを撮っていた時、突然頭上を通過して行った。
9. 遠くて証拠写真しか撮れなかったが、地元の山で見られて感動しました。
10. 台風18号が去った後は海岸近くへ来ていました。沖にいるものも含めて30羽くらいいた。
11. 畦道の桑の木に停まっている3羽の姿を発見、今季初認であったので投稿させてもらいました。
12. ハシボソガラスに追われていた。
13. 朝から雨模様のうっとおしい日、枝から枝へ飛び移り虫を取る鳥がいた。
14. 今年も来ました。ムラサキシキブの実、今年は豊作。
15. この秋3度目の出会い。今度は、♂成鳥のエクリプスと出会えました。
16. 沖合の杭にとまっていた。もう少し近くで見なかった。
17. 宇賀溪へ行った。駐車場に近い遊歩道の石の上に鳥がいる。見ればミヤマホオジロ、初認。

18. どんぐりの木の下に居ました。
19. なかなか姿をみせてくれませんが、カラスザンショウにやってきました。
20. 羽鳥峰までのハイキング途中に出会った。しばらく見ていると10羽ほどが飛んだ。
21. 休憩していると頭上から鳥の声。マヒワの群れがハンノキにやってきていた。初認。
22. 羽鳥峰の帰途駐車場近くの道ぞいでヤマドリがほぼ無傷で死んでいた。



ツバメチドリ : 山神 勝治



セイタカシギ : 広野 喜郎



オオミズナギドリ : 三曾田 明



アカアシシギ (成鳥) : 玉田 浩司



シマアジ (成鳥雄) : 山神 勝治



チュウサギ : 今西 純一



オシドリ：唐津 敏明



マミチャジナイ：西村 四郎



イヌワシ：山神 勝治



ヤマドリ：矢田 栄史



クロハラアジサシ：山神 勝治



センダイムシクイ：小野 新子





## 今後の探鳥会予定 (詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください)



● 1月9日(火)、2月10日(土)  
ミヤコドリカウント探鳥会 \* 会員のみ  
雨天決行!  
開催地 / 伊勢湾西岸各地  
**参加予約必要 平井 正志 059-268-3072**

● 1月14日(日) 上野森林公園探鳥会  
開催地 / 伊賀市下友生 上野森林公園  
集合 / 9:30 上野森林公園ビジターコテージ  
解散 / 11:30 集合地  
**参加予約必要 上野森林公園 0595-21-2151**

● 1月27日(土) 県民の森探鳥会 少雨決行!  
開催地 / 三重郡菟野町千草 三重県民の森  
集合 / 9:30 三重県民の森 ふれあいの館  
解散 / 12:00 集合地

● 1月28日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
開催地 / 愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
集合 / 9:00 愛知県弥富野鳥園  
解散 / 12:00 集合地

● 1月28日(日) 横山池・安濃ダム探鳥会  
開催地 / 津市芸濃町 横山池・安濃ダム  
集合 / 10:00 津市芸濃文化センター駐車場  
解散 / 12:00 安濃ダム

● 1月28日(日) 大淀海岸探鳥会 少雨決行!  
開催地 / 多気郡明和町 大淀海岸  
集合 / 9:30 大淀小学校前 業平の松公園  
解散 / 11:30 集合地

● 2月4日(日) 木曾三川探鳥会  
開催地 / 桑名市・海津市・愛西市  
揖斐川・長良川・木曾川  
集合 / 9:00 桑名市 多度大社前駐車場付近  
解散 / 12:00 集合地

● 2月18日(日) 両ヶ池探鳥会  
開催地 / いなべ市大安町石樽東 両ヶ池公園  
集合 / 10:00 両ヶ池公園道路脇駐車場  
解散 / 12:00 集合地

● 2月18日(日) 五十鈴公園探鳥会  
開催地 / 伊勢市 五十鈴公園  
集合 / 10:00 浦田町バス停  
解散 / 11:30 五十鈴公園

● 2月25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、1月28日と同じです。

● 3月4日(日) 勝田池探鳥会  
開催地 / 玉城町勝田 勝田池周辺  
集合 / 9:30 玉城ふれあい農園 駐車場  
解散 / 11:30 現地

● 3月11日(日) 偕楽公園探鳥会  
開催地 / 津市広明町 偕楽公園  
集合 / 10:00 偕楽公園駐車場  
解散 / 11:30 集合地

● 3月11日(日) 余野公園探鳥会  
開催地 / 伊賀市余野 余野公園  
集合 / 10:00 余野公園駐車場  
解散 / 12:00 公園内

● 3月11日(日) 海辺の鳥を観察しよう  
開催地 / 津市高洲町 安濃川河口  
集合 / 9:30  
解散 / 12:00  
共催 / 三重県総合博物館  
**参加予約必要 三重県総合博物館 059-228-2283**

● 3月13日(火) 海蔵川探鳥会  
開催地 / 四日市市西坂部町 海蔵川沿い  
集合 / 9:40 海蔵川代官橋 北詰  
解散 / 12:00 集合地

● 3月25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、1月28日と同じです。



チュウシャクシギ



●五主探鳥会

2017年9月10日(日) 9:30～11:30

松阪市 五主海岸

吉崎 幸一 松島 雅之 参加者22名(会員16名)

マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ケリ、ダイゼン、シロチドリ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、ミュビシギ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、セッカ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計33種

まだ夏の暑さが残っていましたが、風は秋を思わせるさわやかなものでしたし、天候は絶好の日和でした。桑名から志摩の方まで、そして県外の方まで参加して頂きました。

開始直後は潮が引いておらず鳥は少なかったのですが、ボラ池まで行って観察していると潮が引き始め、五主海岸に戻ると、予想していたシギチドリがほぼ姿を見せてくれました。

渡りはじめのカモの仲間も見られ、まずまずの探鳥会になったものと思われまます。

●海蔵川探鳥会

2017年9月12日(日) 開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

●多度山タカ渡り探鳥会

2017年9月23日(土) 9:00～13:00

桑名市 多度山3合目

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者7名(会員6名)

キジバト、アオバト、アマサギ、チュウサギ、コサギ、ミサゴ(3)、ハチクマ(39)、トビ(4)、オオタカ(1)、サシバ(11)、ハヤブサ(2)、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ルリビタキ 計19種

前日からの雨も上がり、タカの観察日和でした。12時に終了したのですが、13時まで続けて観察された分も含めて報告します。昼前後がたくさん見られました。

観察できた猛禽類はミサゴ3、ハチクマ39、トビ4、オオタカ1、サシバ11、ハヤブサ2です。

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2017年9月24日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

笹間 俊秋 参加者8名(会員7名)

オシドリ(1)、マガモ(2)、カルガモ(9)、コガモ(7)、カイツブリ(5)、キジバト(3)、カワウ(60)、アオサギ(10)、ダイサギ(50)、チュウサギ(50)、コサギ(10)、ケリ(6)、コチドリ(4)、ミサゴ(5)、チュウヒ(1)、サシバ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(40)、ハシブトガラス(120)、ヒバリ(4)、ショウドウツバメ(5000)、ツバメ(2000)、ヒヨドリ(3)、ムクドリ(4)、ノビタキ(5)、スズメ(30)、ハクセキレイ(6)、セグロセキレイ(10)、カワラヒワ(30)、ホオジロ(3)、カワラバト(20) 計31種

干拓地の草原には無数のツバメが餌を捕っていた。ショウドウツバメが7割ほどを占めていました。上空にはミサゴやサシバの姿も。チュウヒは干拓地にはいませんでしたが、鍋田の田んぼに降りて狩りをしていました。その周辺にはノビタキの姿も。

最後に3週間ほど水路に居ついているオシドリのエクリプスを車の中から観察して探鳥会を終了しました。



サシバ

●伊勢タカ渡り探鳥会

2017年9月30日(土) 7:00～11:00

伊勢市 伊勢やすらぎ公園納骨堂前

中西 章 高木 正文 参加者18名(会員13名)

キジバト、アオサギ、ハチクマ、トビ、オオタカ、サシバ、アオゲラ、サンショウクイ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ 計21種

前日、静岡で7,000羽飛んだというタカ渡り情報により、期待がふくらんだ。

やはり9:00すぎに50羽のタカ柱が現れ、その後も続々とサシバの渡りが続き、11時半まで455羽を記録した。

ただ、多くは北コース及び南コースであり、やすらぎ公園の上空を飛ぶサシバは少なかった。探鳥会当日に多くのサシバの渡りが観察できたのは久々である。

### ●相津峠タカ渡り探鳥会

2017年10月1日(日) 8:30～12:00

松阪市飯南町 相津峠

西村 四郎 中村 洋子 参加者9名(会員9名)

アオバト、ハチクマ、トビ、サシバ、ノスリ、クマタカ、コゲラ、アオゲラ、ハヤブサ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、計18種

待ち合わせ場所の道の駅「茶倉」で早くもサシバ7羽が飛んでいました。前日伊勢(やすらぎ公園)では500羽飛んだとのこと、期待に胸膨ませ峠まで行きました。この日もやすらぎ公園ではけっこう飛んでいる、との連絡もあり期待して待つことにしました。

しかしながら、待てどもなかなか現れてくれません。しかたなく樹木の間から北方面を覗くと、なんと、たくさん飛んでいます。ルートがずれているようです。場所を変えようと思いましたが、ハヤブサが真上を飛んだので、そのまま粘ることにしました。クマタカが松の木にとまり、ハチクマが3羽現れ、サシバも遠いながらもぼつぼつタカ柱になりながらけっこう渡っていきました。最後はノスリが近くを飛んで終了となりました。サシバは概ね200羽程確認できました。

※この日の参加者でマダニにかまれた人がいました。注意しましょう。



ハチクマ

### ●みつえ高原タカ渡り探鳥会

2017年10月1日(日) 8:00～12:00

奈良県御杖村 みつえ高原牧場

田中 豊成 玉田 浩司 参加者17名(会員10名)

キジバト、トビ、ハイタカ(1)、サシバ(233)、ノスリ(7)、クマタカ(1)、オオアカゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ノビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計19種

10時頃より約1時間に次から次へサシバが現れ、何回もタカ柱が観察された。他にはノスリ7羽とハイタカ1羽。留鳥のクマタカも飛翔した。今回は遠くを飛んだのが多いため、他の種の正確な同定が難しかった。確実な種は上記のものです。

### ●香良洲海岸探鳥会

2017年10月2日(月) 13:00～15:00

津市香良洲町 香良洲海岸・雲出川河口左岸

今井 光昌 今井 鈴子 参加者13名(会員13名)

アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、アカアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、ミユビシギ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ツバメ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ 計23種

雨空の探鳥会となりました。香良洲海岸から歩いて雲出川河口左岸までのコースを予定していましたがコースを変更し、時間を短縮し、雲出川河口左岸と右岸の五主側を車で移動しての探鳥会となりました。予定していた香良洲公園の松林周辺の小鳥類の観察が出来なかったことで、観察種は干潟及び砂浜の23種の水鳥だけとなりました。

その後コーヒーを飲みながら野鳥の話に花を咲かせました。

### ●答志島タカ渡り探鳥会

2017年10月7日(土) 7:30～11:30

鳥羽市 答志島

小坂 里香 西村 泉 参加者11名(会員11名)

カワウ、アオサギ、クロサギ、ウミネコ、ミサゴ、トビ、ノスリ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ツバメ、ヒヨドリ(渡り)、メジロ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、ドバト 計20種

当日朝まで 午前中雨の予報で少雨決行と覚悟したが、結果オーライ、回復が早く好天に恵まれた。雨がたたったのと、前週多くのサシバが渡ってし

まったため、観察できた渡りらしきタカはミサゴ1羽、ノスリ2羽のみだったが、伊良湖を飛び立ったヒヨドリの大群がそのままの数で目の前を何度も通過し埋め合わせをしてくれた。当初の予定を変更し、答志地区の「ブルーフィールド」付近ではほぼ定点観測だったが、小鳥類もちらほら観測でき、合間におやつを食べたり自己紹介をしたり、退屈せずにごぞせた。

終了後、和具港の飲食店にて食事+交流会を行い、好評だった。船や飲食の都合で少人数限定のわがまま探鳥会だったが、渡りの絶好の観察場所だったのでまた開催したい。



ミサゴ

### ●市木川及び田んぼ探鳥会

2017年10月8日(日) 9:00～12:00

南牟婁郡御浜町 市木

共催団体/御浜町役場

中井 節二 清水 勝海 参加者35名(会員3名)

ヒドリガモ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ヒクイナ、イカルチドリ、イソシギ、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、メジロ、セッカ、ムクドリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ムネアカタヒバリ、ホオジロ、計27種

本日はたくさんの方が参加をしていただきました。子供たちも多くて、久しぶりに楽しい探鳥会でした。

### ●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2017年10月22日(日) 9:00～10:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者3名(会員3名)

カルガモ(19)、ホシハジロ(1)、カイツブリ(1)、キジバト(2)、カワウ(15)、アオサギ(3)、ダイサギ(7)、チュウサギ(5)、オオバン(18)、イソシギ(1)、ミサゴ(1)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(1)、ヒヨドリ(1)、スズメ(231)、ハクセキレイ(4)、カワラヒワ(4)、ドバト(51) 計19種

台風による大雨のため、参加者はリーダー以外になく、調査をかねて3名で観察地点を回りました。土砂降りのため視界も良くなり、観察できた鳥類もわずかでした。風速も強くなりそうなので、1時間で終了しました。

### 編集後記

今回の記事にもある2017年の中部ブロック会議は10月末に石川県かほく市で行われた。2日目には普正寺の森で探鳥会があり、私も参加してきた。

普正寺の森は、昨年5月の宿泊探鳥会でも行ったが、今回は晩秋で渡りの最盛期と言う事で多くの鳥が観察できた。普段探鳥に行く三重県内とは違い園内にはさまざまな植物が驚くほど多くの実をつけ、それを鳥たちが啄ばんでいた。つまりここには多くの渡り鳥が飛来し種子を落とし発芽するという好循環が出来上がっているのかもしれない。

しかし、ここでも大規模な河川工事が計画されている。大雨対策が必要なのは分かるが、自然どうまく折り合いを付けて、この良い環境が未永く続くことを願わずにはいられない。

(T.S)

しろちどり 94号

2018年1月1日発行

題字:濱田 稔

表紙絵:小坂 里香

カット:平井 正志

編集:平井 正志・笹間 俊秋・三曾田 明

発行所:日本野鳥の会三重

平井 正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷:株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市